○菊地恵一委員長 続いて、二十一世紀クラブの質疑を行います。

なお、質疑時間は、答弁を含めて五分です。阿部眞喜委員。

○阿部眞喜委員 二十一世紀クラブの阿部眞喜です。午前中と質問が重複してしまう部分もありますが、通告に従って質問させていただきます。よろしく願いいたします。

今回の補正予算ですが、国の米国税措置を受けた緊急対応パッケージの一環として交付される物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用し、物価高騰の影響を受けた生活者や事業者に対する支援を予算化するものということですが、国から十億円、県の一般財源から二億円を追加し、十二億円の補正予算となっております。現在、物価高に苦しむ状況が続いておりますが、県民の生活も苦しい状況です。この状況下で、国から来ている金額を県として割り振りするのは大変だったかと思いますが、公明党の伊藤議員からも質問がありましたが、昨年、一昨年に比べて五分の一、六分の一となり小規模になりましたと、御理解くださいという知事の答弁もありましたが、補正予算について今回から来ている金額に対し、県としての見解をいま一度、答弁をお願いいたします。

○村井嘉浩知事 十分であったというふうには思いませんが、昨今の事情で、秋口に大型の補正を組むのでこれで取りあえず緊急的な最低限のことをやってくれということでありましたし、LPガス等については国のほうからこういうことに使ってくれということに指示がございました。そういったことでこのような形でぎりぎりの配分をさせていただいたと、交付させていただいたということでございます。決して十分であったとは思いませんが、できる限りの対応を国としてもしたのではないかとというふうにご考えております。

○阿部眞喜委員 では、今回来た金額の割り振りについて重視したことがあれば、県としての見解をお願いいたします。

○小野寺邦貢総務部長 今回の補正予算の計上に当たりましては、国の電気・ガス料金負担軽減支援事業の対象とならないLPガスや特別高圧電力利用者への支援をまず最優先に措置したところでございます。次いで、子育て世帯等の生活者支援に充てまして、事業者支援につきましては、国の推奨事業メニューの中から特に価格転嫁が困難なものや食料品価格に影響いたします第一次産業への支援を対象を絞って計上したところでござ

ございます。

○阿部眞喜委員 今後割り振られなかった事業についてどのように県として支えていく考えなのか、いま一度教えていただけますでしょうか。

○小野寺邦貢総務部長 今回は、国として、補正予算の編成ではなく予備費を活用いたしました限定的な対応でございましたことから、我が県におきましても、国からの交付金配分額に合わせて対象を絞らざるを得なかったということでもあります。今年の秋には、先ほど知事からも答弁ありましたけれども、国が本格的な経済対策補正予算を編成するという報道もございしますことから、こうした動きを注視しながら追加の対応を検討してまいりたいと考えております。

○阿部眞喜委員 県民の皆様の生活を守るために政治がもちろんあると思っておりますので、秋口の経済対策に期待を申し上げ、私からの質問を終わらせていただきます。ありがとうございます。